

基調講演A

地球規模でイノベーションを促進するシステム

基調講演B

イノベーション・エコシステム**チェアパーソン：石倉 洋子** 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授

21世紀初頭にあたり、世界各国は、科学技術の研究開発によるイノベーションを競い合う大競争を展開している。ここでは数あるイノベーションの中でも、「科学的な知識を用いて新しい技術や新しいアイデアを創造し、それを経済的・社会的に価値あるものとして、社会的ニーズを満足するプロセス」と定義する。中でも最近とりわけ注目されているのが、国家イノベーション・エコ・システム（NIES）という考え方である。NIESとは、国の各セクター（産官学にわたる多様な組織）が相互に協働、競争を続け、イノベーションを誘発するように働くシステムである。すなわち、いかにして、基礎研究を初めとする科学的知識を新しい製品・サービスや新しい市場に転換し、経済社会的価値を増大させ、より良い社会を形成するか、そのために、情報、人材、資金、制度が自由かつオープンに交流し、結び付く「場」を構築するかが中心課題となる。

ここで言うエコ・システムとは、「エコロジー」の「エコ」で、多様な組織がダイナミックで柔軟に交流し、協働・競争を繰り返しながら、より進化した高度な社会システムを作り上げるという「多様」「進化」「協働・競争」「相互作用」を特徴とする生態系に類似の社会システムを想定している。本会議でとりあげるイノベーションは、経済が高度に発展した欧米や日本、急速な進展をとげているアジア諸国を中心にしている。

会議のはじめに行われる基調講演のセッションでは、まずAで、米国、欧州、アジアの代表が、地理的、時間的に異なった視点から、歴史的かつ世界を概観したグローバル・イノベーション・エコシステムを定義する上での課題を提起する。

- 1) OECD諸国を中心に概観した21世紀型「科学技術イノベーション」を醸成するシステム
- 2) ヨーロッパ地域でのイノベーション・エコ・システムの進展と欧州地域から見たGIES
- 3) アジア地域の3つの異なった視点 すなわち、
 - a) アジアの都市国家として、バイオなど新しい分野において積極的な国家政策を持ってイノベーションを推進しているシンガポール
 - b) IT分野において、目覚ましい変化を見せ、産学官を中心としたイノベーション政策を推進する韓国
 - c) 長い歴史・伝統をもち、長期的な視点から大学、民間を中心としたイノベーションを進めてきた京都からのGIESへの視座、アプローチを概観する。

その上で、NIESとGIESの関係、地域レベルの連携の可能性について議論を進める。



基調講演の後半B セッションでは、日本における科学技術政策の概観、本会議の目的であるNIESの定義とインプット、アウトプット、それをつなぐ「場」という枠組みが説明される。最後に本会議の各セッションの位置づけ、狙いを全体から概観する。

本セッションの目的は、GIESを定義する上での課題とGIESを実践して行く上でのトレードオフを提起し、本会議での議論の共通基盤を構築しようとするものである。